

「坂東市」横断歩道橋長寿命化修繕計画

平成31年3月

令和5年3月 改訂

令和6年3月 改訂

坂東市 都市建設部 道路管理課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

- 坂東市が管理する横断歩道橋は、平成 31 年 3 月現在、3 橋である。これらについて橋梁長寿命化修繕計画策定を行う。これらの橋梁は、いずれも 1975 年に架設され、供用年数は 43 年経過している。
- 今後 10 年後には、供用年数が 50 年以上となる。
- このような背景から、今後、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替に要する費用に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠である。

2) 目的

このような背景から、より計画的な横断歩道橋の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に維持していくための取組が不可欠となる。

コスト縮減のためには、従来の「事後保全型」から、損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う「予防保全型」へ転換を図り、横断歩道橋の寿命を延ばす必要がある。

そこで、坂東市では、将来的な財政負担の低減・平準化および利用者の安全性の確保を図るために当該の横断歩道橋について橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

対象横断歩道橋	橋長(m)	道路幅員(m)	路線名
四ツ家歩道橋	14.2	1.5	市道岩 1 級 13 号線
寺前歩道橋	13.1	1.5	〃
辺田歩道橋	13.1	1.5	〃

3. 対策の優先順位の考え方

- 1) 健全度の把握の基本的な方針
横断歩道橋の健全度を把握するために、定期的に点検を実施する。また、必要に応じて詳細調査を実施する。
- 2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針
横断歩道橋を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロールや清掃などの実施を徹底する。
- 3) 優先順位の考え方
主要部材ならびに二次部材の健全性ならびに利用実態等について、それぞれの優先順を設定する。また、いずれの歩道橋も小学校の通学路に該当するため、学童の利用者数による評価も行う。

4. 対象横断歩道橋の長寿命化及び修繕・架替に係る費用の縮減に関する基本的な方針

従来の事後的な保全ではなく、計画的な予防保全により橋梁を延命化することで、修繕・架替えにかかる維持管理費の縮減を図る。

今回計画策定対象横断歩道橋 3 橋について『予防保全型』による長寿命化を図ることとし、今後の利用状況や新たな道路網の整備等による利用環境の変化などを踏まえ、撤去等が効果的である場合は集約化・撤去の検討を行う。

5. 新技術等の活用方針

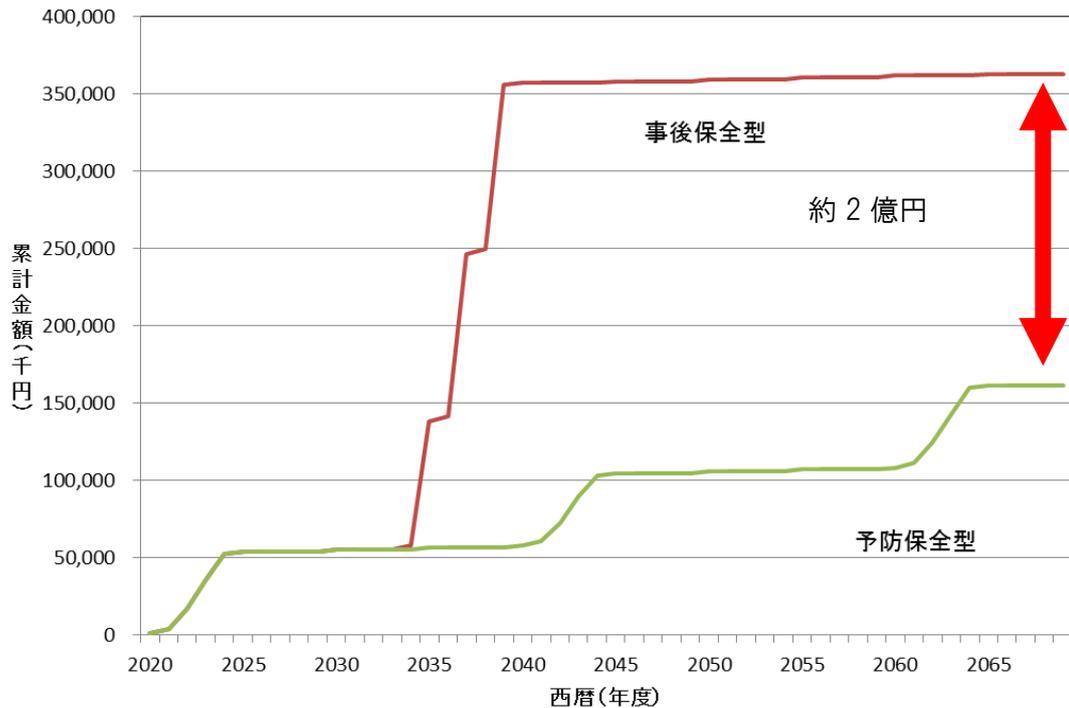
今後の老朽化対策においては、事業の効率化を図るために、従来工法のみではなく、新工法や新材料などの新技術等を加えた比較検討を実施する。

6. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容

No.	橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	架設年度	供用年数	最終点検年次	健全性	対策の内容・時期											
									2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028		
									H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10		
1	四ツ家歩道橋	1級	岩1級13号線	14.2	1975	49	2020	Ⅲ			↔	↔	↔							
										点検	協議	設計	補修		点検					
2	寺前歩道橋	1級	岩1級13号線	13.1	1975	49	2020	Ⅱ				↔	↔							
										点検		設計・協議	補修		点検					
3	辺田歩道橋	1級	岩1級13号線	13.1	1975	49	2020	Ⅲ		点検						↔	↔			
										点検					設計 点検	補修				

7. 対策費用

長寿命化修繕計画を策定する3橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型で架設60年目まで補修を行い、60年目から1橋ずつ順に架替えることを想定した場合が約3.6億円に対し、長寿命化修繕計画による費用は約1.6億円となり、コスト削減効果は約2億円となる。



8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

坂東市 都市建設部 道路管理課 TEL:0297-21-2196

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

福手 勤 東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 教授